

11章 チャットイングからミニディベートへ

1.指導の背景

(1) チャットイング、ミニディベートとは

話す内容を「原稿の形で準備しない」スピーキング活動。

⇔Show & Tell ・プレゼンテーション

チャットイング：生徒同士が様々な話をするペアワーク。

ミニディベート：日常的な話題について好きか嫌いか、賛成か反対か、などをその理由とともに少人数で述べあう簡易型のディベート。

(2) チャットイング、ミニディベートの利点

チャットイング

〈利点〉

- ①英語を話す雰囲気作りができる
- ②英語を話すことに慣れることができる
- ③様々な話題について話すことができる
- ④心理的な負荷をあまり感じることなく英語を話すことができる
- ⑤これまで学習した語彙、文法や表現を使うことができる

ディベート・ミニディベート

〈一般的なディベートの利点〉

- ①客観的・批判的・多角的な視点が身につく
- ②論理立った思考ができるようになる
- ③自分の考えを道筋立てて、人前で堂々と主張できるようになる
- ④情報の収集・整理・処理能力が身につく

〈英語でのディベートの利点〉(橋本・石井 1993)

上の四つに加え

- ⑤四技能を総合的に強化することができる
- ⑥対話力としての英語力を育成することができる
- ⑦知的対話に必要な語彙を習得することができる

〈ミニディベートの利点〉

上の七つに加え

- ⑧クラスの生徒全員が一斉に同じ活動に取り組むことができる

- ⑨頻繁に授業で行うことができる
- ⑩ゲーム感覚で楽しみながら参加できる

2.指導の実際

(1) チャットティング

話題の設定

- ア) 時期や行事に関連させる
- イ) 生徒の興味・関心があるものに関連させる
- ウ) 教科書の内容に関連させる
- エ) ミニディベートに移行しやすい話題を設定する
 - ミニディベートに移行しやすくするために、好きか嫌いかなど理由を必要とする話題から始め、メリット・デメリットを比較する価値観論に移行し、意見が対立しやすい話題を増やす。

チャットティングの手順

- ①話題を切り出す
- ②相手の話に反応する
 - ※Yes / No だけの反応は禁物。
- ③自分の意見を言う
- ④相手に質問して会話を続ける
- ⑤話を上手に切り上げる

実際は②～④のステップは混じり合って表出されるため、チャットティングにおいて話し手は会話を続けるために、質問→答えという流れを基本にして、そこに自分の意見や感想、新しい情報などを追加していくことが大切である。

(2) ミニディベート

チャットティングのように思いつくまま話を続けるのではなく、設定されたテーマ・命題に対して自分の意見を述べるとともに相手の意見に反論して話を進める形になる。命題は生徒に身近なものにし、学習した語彙や表現を使える内容となるようにする。

ミニディベートの手順 pp. 180-183

ブレインストーミング → ミニディベート → ジャッジ

ブレンストーミング：

命題に対する賛成と反対の理由を生徒に自由な発想で考えさせる。

ミニディベートの種類 pp. 183-187

ア) チョークディベート (クラス全体で討論させる場合)

イ) ピンポンディベート (6名で行う場合)

ウ) ダイアログ (ペアで討論させる場合)

エ) テニスディベート (4名で討論させる場合)

3.まとめ

チャットイング、ミニディベートは話す内容を「原稿の形で準備しない」スピーキング活動の一例であり、学習者にある程度の発話量を促すことを目的としている。特にミニディベートは発話量を増やし、英語で議論する基礎的な力を育むことができる。

英語で議論する基礎的な力を育成するには以下のことが大切となる。

- ①原稿を持たずに話させて、学習者に考えながら英語を話す習慣を身につけさせること
- ②学習者に相手の意向を正確に聞きとらせること ←メモを取る習慣をつけさせる。
- ③学習者に相手の意向を聞き取った後自分で判断を下して、自分の意見をきちんと相手に述べさせること

※チャットイングとミニディベートでは自分の意見を相手に述べる時に異なった力が求められる。

チャットイングでは話題を続けたり転換したりすることなど、会話の流れを自然にすることが大切だが、ミニディベートでは肯定側か否定側かという自分の立場に沿って論を組み立てながら話すということが大切。

感想・考察

本章で述べられたミニディベートは実施することができれば大変効果的なものだろう。

しかし、本当にこれを現在の教育現場に取り入れることは可能なのだろうか。本章を読む限りではミニディベートは生徒にかなり技術を要求する活動に感じる。熟達度に差がある教室では行えない可能性があるのではないだろうか。

日本語まずはやってみるという方法が授業では挙げられた。これはかなり意味のあることだろう。ディベート自体を経験したことのない生徒たちにとってはまずはこの段階を踏んでから英語でのミニディベートを行うべきであろう。ミニディベートを取り入れるならばこのような事に気をつけるべきだと考える。